

第3学年 道徳学習指導案

1 総合単元名 ともに助け合おう

2 総合単元設定の理由

(1) 総合単元について

私たちは、常に社会の中で他者とのかかわりを持ち、周囲の人に支えられながら生きている。変化の激しい社会において、今子どもたちに求められているのはどんな場面でも他者と協調しつつ、自律的に社会生活を送っていくことであろう。しかし、今日の家庭や社会では、少子化がますます進み、人工的・機械的な物とのかかわりが増え、直接人と人とが触れ合う経験をすることや、思いやり・譲り合いの精神をはぐくむことが困難になってきている。

3年生の子どもたちは、徐々に集団の規則や遊びのきまりの意義を理解し、集団の目標の達成に主体的にかかわって、協同作業を行ったり、自分たちできまりをつくり守ったりできるようになってきた。また、低学年のころと違って、相手の気持ちを自分におきかえてとらえることもできるようになってきた。しかし、気の合う友達同士だけで遊び、他の友達を受け入れず、健康的な仲間集団をつくれないことがある。友達とよりよい人間関係を築いてほしいと願うのは教師だけでなく、保護者のアンケート結果からもうかがわれる。そして、何よりも子どもたち自身がそう願っている。

(アンケート「子どもにどのような道徳性を身に付けさせたいか」「心をみがき大きく育てよう」より)

そこで、2学期は、他者の悩みや心の痛みにじっくりかかわろうとする姿勢で、相手の立場に立って、相手が本当に望むことを考えようとする心情を育てたい。そして、友達と信頼関係をもちながら互いに助け合っていこうとする態度を養いたいと願い、本総合単元を設定した。

(2) 単元構成について

3年生の学年重点目標は、「相手に対して思いやりの心を持ち、互いに助け合う」と「生命の尊さやかけがえのなさを感じ取り、生命あるものを大切にする」である。

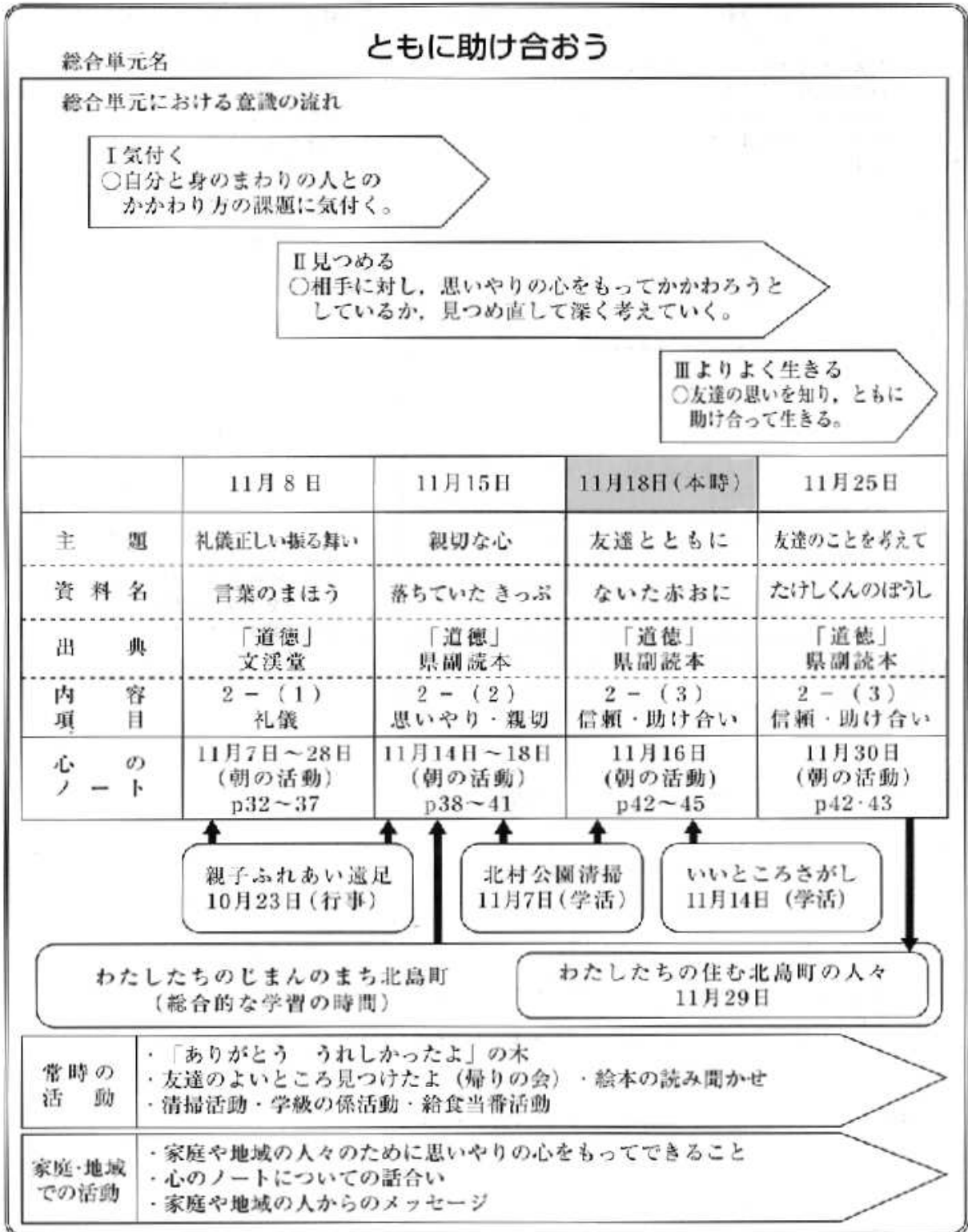
1学期は、総合単元「生きるってすばらしい」を設定し、生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にしようとする心情を育ててきた。まず、自分の誕生や生育の過程、けがや病気をしたときの様子などを家の人に聞き、自分の生命の尊さを知った。そして、生き物を育てる体験活動を通して、小さな生命を支えてきた喜びや感動を知った。また、大切にしていた生き物が死んだ体験や生命にかかわる危険や病気の体験を通して、生命の大切さも実感した。そして、多くの人に支えられ、励まされて生きている自分を感じた。2学期には、総合単元「ともに助け合おう」を設定し、相手を理解し、信頼し、助け合って生きていこうとする態度を養いたい。さらに、3学期には、総合単元「やりとげよう」を設定し、粘り強く最後まで物事をやり遂げることの大切さを学び、学習のまとめとなるようにしたいと考えている。

本総合単元「ともに助け合おう」の学習では、相手を理解し、信頼し、助け合えるよう人の心を感じる力を育てたい。北島町の人々や異学年との交流など、様々な体験を通して、心のふれあいを広げたい。これらの体験を道徳の時間に生かし、さらに感じ取った思いやりの心を行動に移していくことの大切さを学ばせたい。そして、学級での係・当番・グループ活動などの協同作業を通して、互いに助け合って生活していく態度を身に付けてほしいと願っている。家族とはひと味違った友達とは、これからはますますかかわりも増え、いろいろな場面で支えとなるであろう。そんな友達と励まし合い、共に成長していくことの喜びを感じ取らせたい。

3 総合単元の目標

相手に対して思いやりの心を持ち、互いに信頼し、助け合いながら健康的な仲間集団を積極的につくっていかうとする態度を養う。

4 学習計画



子どもの意識・実践の様子・評価

道徳の時間 ~~~~~ 心のノート
 教科等 常時 ===== 体験活動 ○めあて ●評価

	子 ども の 意 識	学 校 ・ 家 庭 ・ 地 域 で 生 か す
I 気 付 く	<p>心のノート（朝の活動） 11月7日 「人とともに生きよう 礼儀一形を大切に心をかよわせ合う」 p.32~36 ○相手を大切にすることを心がけよう。 ・挨拶をするといいな。 ・相手の話を最後まで聞こう。 ・友達と話すとき、大人と話すときの、言葉の使い分けをしよう。 ・礼儀正しい「わたし」をめざしてやってみよう。 ●「心」は「形」となって表されることにより、相手を大切にすることを心がけることがわかり、これからがんばろうという意欲がもてたか。</p>	<p>「親子ふれあい遠足」（行事） 10月23日 ○家の人とふれあおう。 ・家の人から朝早くから作ってくれたお弁当なんだよ。 ・友達や家の人といっしょに回れてうれしいな。 ・大きく育ててくれた家族の人に感謝しよう。 ・なかよく遠足を楽しみたいな。 ・友達の家の人に挨拶できたよ。 ●まわりの人のことを考えて活動できたか。</p>
	<p>資料名「言葉のまほう」（道徳） 11月8日 ○真心をもって接することの大切さに気づき、相手の気持ちを思いやる言動をしようとする。 ・店先で男の子とぶつかり、思わずどなってしまったとき、相手の子からどなり返され、にらみつけられていやな気持ちになったな。 ・スーパーで、男の子とぶつかって「ごめんね。」と目を見てみかんを拾ってくれたとき、気持ちよくなったし、うれしかったな。 ・突然どならなきゃよかったな。ほくも謝ればよかった。 ・礼儀正しくすると気持ちがいいな。 ●礼儀が互いの気持ちをよくし、楽しく生活する上で大事なことであることを理解し、真心をもって接しようとする意欲がもてたか。</p>	<p>心のノート（朝の活動） 11月8日~28日 「礼儀正しい「わたし」をめざしてゴー」 p.37 ○心がけようと思うことに取り組んでみよう。 ・家の人や近所の人に挨拶できたよ。 ・マナーを守って食事ができたよ。 ・友達に話すときと大人に話すときの使い分けができたよ。 ●相手のことを考え、礼儀正しくできたか。</p>
II 見 つ め る	<p>心のノート（朝の活動） 11月14日~18日 「思いやりの心をさがそう」 p.38~41 ○思いやりの心をさがそう ・自分のまわりにいる人の心を感じ取るようにするにはどうすればよいのかな。 ・困っている人がいたら助けたいな。 ・悲しんでいる人がいたら、気づかおう。 ・喜んでいる人がいたら、いっしょに喜ぼう。 ・友達のよいところを見つけていくと思いやりの心が育つと思う。 ・思いやりの心は感謝の気持ちを表すことやあいさつをすることにもつながっている。 ・家族や地域の人々のためにできることをやってみよう。 ●思いやりの心をもって、まわりの人と接しようとする意欲がもてたか。</p>	<p>・郵便配達のおにいさんがけがをして困っていると助けてくれたよ。優しいな。 ・自動車で乗っている人がとまって、渡らせてくれたよ。うれしかったよ。</p>

資料名「落ちていたきっぷ」(道徳) 11月15日
 ○相手の身になって考え、親切にしようとする。
 ・人は支え合って生きているんだね。
 ・相手のことを考えた親切をしなければおせっかいになるんだね。
 ●困っているときには、親切にしようとする気持ちが高まったか。

心のノート(朝の活動) p42~45 11月16日
 「ひとりじゃないからがんばれる」
 ○友達のよさを感じてもっとなかなよくなるよう。
 ・休み時間に一人である友達を誘って遊ぼう。
 ・協力して進める学習で助け合おう。
 ・友達を信じないと互いにわかり合えない。
 ・友達と協力して助け合うと、できないこともできるようになる。
 ●もっとなかなよくなるための秘訣を自分なりに考えることができたか。

資料名「ないた赤おに」(道徳) 11月18日
 ○友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする。
 ・相手の気持ちを考えずに自分だけ楽しいのは本当の友達じゃない。
 ・心からの友達は互いを思いやることができる。
 ●これからもずっと友達であるために大切なことは、お互いを信頼し、助け合うことであることに気付いたか。

資料名「たけし君のぼうし」(道徳) 11月25日
 ○相手の立場や心情を理解し、助け合い支え合って生活していこうとする。
 ・たけし君の気持ちを知らずにごめんなさい。
 ・髪を短く切って気にしていたのに気付かず、「部屋の中でぼうしをかぶるといけない。早くとりなよ。」と追ってたけし君に恥をかかせてしまった。
 ・なんともないと思ったことでも友達にいやな思いをさせていることがあるんだ。
 ・ほとくの責任だ。たけし君の気持ちをわかるには、同じように髪を切るしかない。
 ・こうしたら、たけし君も気がすむだろうか。
 ・よかった。これでたけし君も学校へ来るだろう。
 ・友達の思いに気付かず悪かった。
 ・たけし君とこれからもなかなよくしよう。
 ●なかなよしの友達であっても、相手の気持ちを理解して支え合うことが大切であることに気付けたか。

・重いおかずは、いっしょに持とうよ。
 ・休んでいる友達に手紙を書いて学校のことを知らせよう。

「北村公園清掃」(行事) 11月7日
 ○みんなで助け合って北村公園をきれいにしよう。
 ・みんなで協力したらこんなにきれいになった。
 ・公園に来る人の気持ちを考えたら、いつもきれいであってほしい。
 ・これからも人のことを考えて行動しよう。
 ●みんなのことを考え、助け合って公園をきれいにできたか。

「よいところさがし」(学活) 11月14日
 ○友達のよいところをさがそう。
 ・絵の具で汚れた廊下をふいていたよ。
 ・みんなが帰った後、一人でみんなのいすをいれていたよ。
 ・昼休みに鉄棒の練習を手伝ってくれたよ。
 ・相手の気持ちを考えて親切にしてくれる友達がいたよ。
 ・友達のいいところが集まれば、いろいろなことに挑戦できる。
 ●友達のよさをたくさん見つけて、友達の思いやりながら助け合っているか。

「わたしたちの住む北島町の人々」(総合) 11月29日
 ○北島町では、私たちが快適に生活できるようたくさんの人が助け合って働いている。
 ・どんな仕事をしている人も相手に対する思いやりの心をもって生活している。
 ・町の人々は助け合って生きている。自分たちにできることをしよう。
 ・グループで調べたことを友達の考えを聞きながら、助け合ってまとめよう。
 ●北島町の人々が助け合っていることがわかり、自分たちも相手の気持ちを考え、助け合って学習のまとめをしようとしているか。

・学級のことを考えて、係活動や当番活動しよう。

(1) 主 題 名 友達とともに

(2) 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

2-(3)	友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。
-------	---------------------

友達の立場を理解することが友達との関係を深めていく第一歩である。互いを認め合い、信じ合うことで、心と心の結びつきは強くなる。信頼に支えられた関係は、単に仲むつまじいといった関係ではなく、利害打算がはたらかず、平等対等な関係でなければならない。つまり、いつも思いやりを受ける側ばかり、与える側ばかりに立っていたのでは、真の友達関係は成り立たない。しかし、人はややもすると表面的なむつまじさだけで自分のことしか考えられず、大切な友を失うことがある。

もし、何らかの困難や危機的場面に直面しても互いに理解し、信頼し、助け合う心があれば、心と心の結びつきはさらに深まるであろう。3年生になると、友達とのきずなを強くしたいという願いが高まってくる。このような時期に、自分のわがままのために友達への思いやりを欠くことのないよう、相手の意見や立場を理解し、互いに助け合いながら向上し合える友達関係を築かせたい。

〈子どもの実態〉

3年生になり、行動範囲が広がるとともに、交友関係も活発になってきた。しかし、放課後の屋内ゲーム遊びなどでは、一緒にいながら個々別々の行動をとり、会話やふれ合いの活動は少ないのが現状である。学習の時間、休み時間、清掃の時間、行事や校外学習など、共に協力し合って円満な人間関係を保っている子どもがほとんどだが、そのような中で級友にどう接していけばよいのか戸惑う子どもが少なくない。友達と気持ちのすれちがいや言葉不足のために誤解を招き、トラブルになる子どももいる。

また、中学年ともなると、気の合う友達同士で仲間をつくる傾向が多く見られるようになる。しかし、そのほとんどは表面的な仲よしの関係で、心から相手のことを考えて行動できている子は少ないように思われる。健康的な仲間集団を積極的に育成しなければならないが、そのためにも、友達を互いによく理解し、信頼し、助け合えるよう指導していく必要がある。友達とのふれ合いを通して相手のよさを認め、共に友達と助け合おうとする心情を育てていきたい。

〈資料について〉 ないた赤おに (県副読本)

村人たちと仲よくしようと努めても分かってもらえず、とうとう腹を立ててしまう赤おに。村で大暴れするから、ぼくをぶってくれと提案する青おに。そのおかげで、赤おには村人と楽しいつき合いを始める。人間と楽しく過ごすことに夢中になっていた赤おには、ふと青おにのことを思い出し、翌日家を訪ねてみると、青おにはいなくて手紙が貼られていた。それを読んだ赤おにはおいおい声をあげて泣いた、という話である。心から赤おにのことを大切に思う青おにの姿、手紙を読んで涙を流す赤おにの姿を中心に、友達同士、心から信じ合い、助け合うとはどういうことなのかを考えることにより、互いに助け合って仲よく生活していこうする意欲を高めていきたい。

(3) ね ら い

友達と互いに理解し、信頼し、助け合おうとする心情を育てる。

学 習 活 動	主な発問と予想される子どもの意識	指導上の留意点と評価
1 友達から受けたうれしい体験を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達がいてよかったなあと思ったことはありますか。 ・けがをしたとき、心配してくれた。 ・なくし物をしたとき、さがしてくれてうれしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> □友達がほしいという子どもの願いをもとに、ねらいとする価値にかかわる意識をもたせる。
2 資料「ないた赤おに」を読んで、話し合う。 ・立て札を立てたのに、誰も来ないときの赤おにの気持ち ・青おにをなぐったときの赤おにの気持ち ・青おにの手紙を読んでいるときの赤おにの気持ち	<ul style="list-style-type: none"> ○ 立て札を立てたのに誰も来ないとき、赤おにはどんな気持ちだったのでしょうか。 ・人間と仲よくなりたい。 ・みんなが近づかないとつらい。 ・泣きたくて悲しい。 ・なんでも話せる友達がほしい。 ○ 青おにをなぐっているときの赤おには、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・人間と友達になりたい。 ・これで人間と友達になれるかな。 ・青おにくんに悪いなあ。 ・青おにくん、なぐってごめんね。 ・ほくのために悪い役をひきうけてくれてありがとう。 ○ 青おにの手紙を読んで涙を流す赤おには、青おにに対してどんな気持ちになったのでしょうか。 ・寂しい、戻ってきてほしい。 ・大切な友達がなくなってしまった。 ・青おにこそ本当の友達だ。 ・ありがとう。きみのことはわすれないよ。 ・青おにに対して申し訳ないことをしてしまった。 ・自分のことだけを考えて身勝手だった。 	<ul style="list-style-type: none"> □人間と仲よくなりたいたいと思っているのになれない赤おにのつらい気持ちを考えることにより、赤おにの願いに共感させる。 □役割演技をすることにより、青おにに対して申しわけないという気持ちとともに、どうしても人間と友達になりたいという自分本位な気持ちがあったことに気付かせる。 □泣いている赤おにの心情を深くとらえることによって、本当の友達とは何かをつかむことができるようにする。 ●友達同士のきずなを強くするためには、互いに相手の気持ちを理解することの大切さがわかったか。(発言)
3 自分たちの生活について振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今までの自分は、友達のことを考えて助けたことはありますか。そのとき、どんな気持ちでしたか。 ・勉強の分からない友達に教えた。 ・一輪車ができないので一緒に練習した。 ・転んでけがをしたとき助けようとした。 	<ul style="list-style-type: none"> □今までの体験を振り返り、じっくりと自分のことを考えさせる。 ●自分自身の友達についての考え方を深めることができたか。(ワークシート)
4 友達との助け合いについての思いを深める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなでいっしょにビリーブを歌いましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> □友達と互いに理解し、信頼し、助け合うことのよさが心に残るようにする。 ●友達の思いを知り、ともに助け合っていこうとする実践への意欲付けをすることができたか。(観察)

